

〔A〕次の傍線部の意味として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 やおら立ち上がる。 ① ゆっくり ② 突然 ③ ちらそうに ④ 急いで
- 2 青洲はやにわに敷蒲団の上に仰向いて倒れると、野獣のように咆えた。〈有吉佐和子『華岡青洲の妻』〉
① こっそり ② おもむろに ③ とうとう ④ ひそかに ⑤ いきなり
- 3 良枝はどうとう列車の中でまんじりもしなかった。〈佐多稲子「かげ」〉
① まばたきもしなかった ② みじろぎもしなかった ③ 何も見なかった ④ 一睡もしなかった
- 4 おむら婆さんは所在ないままに実家の背戸から外へ出て、穏やかな陽を浴びている村道をすこし歩いてみた。〈三浦哲郎「ねぶくろ」〉
① どこに行けばいいかわからない ② 自分の居場所が見つからない ③ することがなく退屈だ
④ 帰るに帰れず困惑している ⑤ 居心地がよくない
- 5 うがった見方をすれば、可能性を追求しないということすら、父にとってひとつの可能性の選択だったのかもしれない。〈小林恭二「父」〉
① 懐疑的な ② 奇抜な ③ 逆説的な ④ かくれた本質をとらえた ⑤ 斜に構えた
- 6 インデックスの完備した本のような頭をもった人は、どうしても索引によってしか内容にふれられないきらいがある。〈外山滋比古『ライフワークの思想』〉
① 嫌がっていること ② よくない傾向 ③ 間違えやすい特徴 ④ 足りないところ
- 7 非生産的、非実用的な行動の様式が、にわかには文明の境を超え始めたのである。〈山崎正和『世界文明史の試み』〉
① 着実に ② ゆっくりと ③ 勢いよく ④ 急に ⑤ 段階的に
- 8 そんな想像にふけりながら、僕はいつまでも一人でその像をためつつがめつつ見ていた。〈堀辰雄『大和路・信濃路』〉
① ささまざまな想像をしながら見つめていた ② 美しさに感動しながらじっと見つめていた
③ 本物かどうかを鑑定するために見ていた ④ よさを確かめるために念入りに見ていた
- 9 そして照明がもどると、また子供たちに説明をはじめた。なにやら鼻白んだ気持ちで、私はその場を離れることにした。〈須賀敦子「ふるえる手」〉
① 失望した ② 迷惑に思った ③ 落胆した ④ 興ざめた ⑤ きまり悪くなった
- 10 僕はその時高木から受けた名状し難い不快を明らかに覚えていた。〈夏目漱石『彼岸過迄』〉
① 名付けることが不可能な ② 意味を明らかにできない ③ 何とも言い表しようのない
④ 言い当てるのが難しい ⑤ 全く味わったことのない
- 11 ある時は臆面もなく彼らは言った。〈リービ英雄『日本語を書く部屋』〉
① おぞおぞとしながら ② 礼儀知らずにも ③ 気後れする風もなく
④ 恐れはばかりながら ⑤ 恥知らずにも
- 12 権利としての自由は、往々にして、人間にとつての便利な道具でしかなくなり、道具をいくら集めても、それだけでは虚しい。〈内山節「自然論」〉
① ししばあること ② 満足できないこと ③ こくまれに出会うこと
④ あちらこちらの場所にあること ⑤ 度量の広いこと
- 13 歴史について語りだす文は、おしなべて物語り文というかたちをとることになるだろう。〈熊野純彦『差異と隔たり―他なるものへの倫理―』〉
① おそらく ② 仕組みからして ③ 概念上は ④ 総じて
- 14 これは、ひとえに「時」のおかげ、「時」の力が入らざる「人間」のさかしらに耳をかさず、正しい裁きをしてくれたからであります……〈久保田万太郎「葉の日記」〉
① 先走り ② 逡巡 ③ お節介 ④ 画策
- 15 ジムは私の後ろから祐介が出てくるのを見て微かに眼を瞞ったが、すぐにいつもの、世の中そのものに対してはにかんだような表情に戻り、〈水村美苗『本格小説』〉
① はじらいながら目を伏せた ② 目を丸くして相手を見つめた ③ 鋭い目つきで相手をにらんだ
④ 驚きをもって目を見開いた ⑤ 非難を込めて目をそらした

〔慣用表現②〕 国語頻出問題1200四訂版 P 114 ~ P 130

- 1 (〔①〕〔第3章・153〕)
- 2 (〔⑤〕〔第3章・155〕)
- 3 (〔④〕〔第3章・154〕)
- 4 (〔③〕〔第3章・97〕)
- 5 (〔④〕〔第3章・113〕)
- 6 (〔②〕〔第3章・128〕)
- 7 (〔④〕〔第3章・147〕)
- 8 (〔④〕〔第3章・134〕)
- 9 (〔④〕〔第3章・149〕)
- 10 (〔③〕〔第3章・90〕)
- 11 (〔③〕〔第3章・94〕)
- 12 (〔①〕〔第3章・117〕)
- 13 (〔④〕〔第3章・119〕)
- 14 (〔③〕〔第3章・129〕)
- 15 (〔④〕〔第3章・91〕)